

滋賀医大病院ニュース 第2号 (2004/3)

著者	滋賀医科大学広報委員会
発行年	2004-03
URL	http://hdl.handle.net/10422/2091



病院機能評価 認定証取得！

病院長 森田 陸 司

本院は、このほど「日本医療機能評価機構」という第三者機関の審査を受け、初回審査で無事合格しました。

病院の「医療の質」を評価するこの審査は大変厳しいもので、病院の医療体制、患者様の権利と安全、患者サービス、医療環境や地域への貢献などの領域について、3日間7名の審査員によって徹底的に審査されました。「受審によって病院は素晴らしく良くなる」と言われております。また、同時に「大変難しい」とも言われております。

審査員の最後の感想で「この病院は大変素晴らしい病院」で、いたる所で「感動しました」と、異例のお褒めを戴きました。病院職員が一丸となって努力した甲斐がありました。しかし、合格したことは、「医療の質が一定のレベルにある」という認証に過ぎないものと考え、次にむかっての「始まり」として医療の質の更なる向上への努力を続けなければならないと、考えております。

理 念

「信頼と満足を追求する全人的医療」



理念を実現するための 基本方針

患者さま本位の医療を実践します
信頼・安心・満足を与える病院を目指します
あたたかい心で最先端の医療を提供します
地域に密着した大学病院を目指します
世界に通用する医療人を育成します
健全な病院経営を目指します

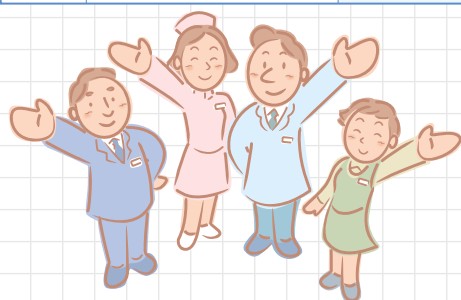


継続看護室でおこなっている看護相談のご案内

継続看護室では、平成15年6月より看護相談を開始しております。当院で専門分野をもって活動している看護師が相談を担当し、相談は、患者様・ご家族・院内の医療従事者・職員・地域の保健師・ケアマネージャー・訪問看護師などどなたからでもお受けしております。お気軽にご利用ください。

【相談領域と担当日】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		WOC相談 感染相談	メンタルヘルス相談	糖尿病療養相談	がん療養相談
午後		WOC相談 感染相談			



【相談申し込み先】

WOC相談 消化器外科・乳腺一般外科 電話077 - 548 - 2556
その他の看護相談 継続看護室 電話077 - 548 - 2772

【相談担当者と相談内容のご紹介】

感染管理相談担当:芳尾邦子(医療安全管理部看護師長)感染管理認定看護師

SARSや鳥インフルエンザのことがニュースになっていますが、細菌やウイルスの感染が終息することはありません。とくに抵抗力が低下した患者様が感染と隣り合わせにいる病院は、MRSAや結核、インフルエンザなどの感染予防策が必要になってきます。看護相談室では患者様やご家族の方に入院中や退院されてから感染について不安に思われること、そして地域の保健師や訪問看護に携わっている方には日々の仕事の中での疑問などのご相談をお受けしています。



メンタルヘルス相談担当:

安藤光子(継続看護室看護師長)リエゾン精神看護専門看護師

精神的な病気は、ご本人だけではなくご家族にとってもつらく、どのように接して良いのか悩んだり、体調を崩されたりと様々な影響が生じます。ご家族が健康的であること、ほどよい接し方を知っていることは、ご本人へも良い影響となって回復をスムーズにします。ご家族が、少し気を楽にしてご本人の療養を支えて頂くお手伝いをできればと思っております。どうぞお気軽にご相談ください。



がん療養相談担当:今堀智恵子(4A病棟副看護師長)ホスピスケア認定看護師

がんという病のために不安になったり辛い気持ちを抱え込んだりなさっていませんか。あるいは痛くても我慢されていませんか。この相談室では患者様やご家族が「自分らしさ」を損なわずに過ごしていけるためのお手伝いをさせて頂いています。ご本人だけでなく、ご家族の方も「こんなこと…」とためらわずに、どうか気軽に何でもご相談ください。



呼吸ケア相談担当:辻井靖子(4B病棟副看護師長)重症集中ケア認定看護師

急性期の患者様やご家族へのケアを専門にしています。気管切開や人工呼吸器装着に必要な吸引のテクニックや排痰援助などを一緒に考えていきます。また、飲み込みにくさ、嚥下障害などのリハビリテーションについてもご相談にのります。病院やご家庭での療養生活が少しでも前向きになるようお手伝いさせていただきます。



糖尿病療養相談担当:

伊波早苗(継続看護室副看護師長)成人看護(慢性)専門看護師

糖尿病は簡単な病気のように、全身に影響が及んでいく、自分自身でも捉えにくい病気です。糖尿病をいかに防ぐか、糖尿病と言われたらどうつき合っていくか、生活は変えないといけないのだろうかなど、わからないことはありませんか。また、合併症が出はじめたり、血糖コントロールが上手くいかない等、お困りの事があれば、是非お気軽にご相談ください。他の生活習慣病のご相談もお受けいたします。



WOC相談担当:中川ひろみ(4A病棟副看護師長)WOC看護認定看護師

川上育子・中北順子(4A病棟)、河村光子(継続看護室副看護師長)

WOC相談室は、創傷(Wound)、オストミー(Ostomy)、失禁(Continence)に関係するご相談をお受けしています。相談室ではストーマを持つ方、尿もれ・便もれがある方、床ずれを持つ方へのスキンケア方法や用品の紹介、相談を行っています。お気軽にご相談ください。なお、傷の処置や骨盤底筋体操などで医師の診察が必要な場合もあります。



河村・中川・川上・中北

薬剤部 山川雅之

ち けん

治験について ~より良い「くすり」を世に送り出すために~

「治験」ってご存じですか。最近、テレビでも取り上げられることがあり、ご存じの方もいらっしゃると思います。新しい「くすりの候補」が「くすり」(新薬)として患者様に使用できるようになるためには、製薬会社等がネズミやウサギなどを使った動物実験を行って、「くすりの候補」の効力(有効性)と毒性(安全性)をくわしく調べ、「くすり」になりそうだと見込まれるものだけが、「くすりの候補」として残されます。そして次に、「くすりの候補」が果たして人でどのような効き目(有効性)や副作用(安全性)を示すのかについて調べられます。人での有効性や安全性について調べることを一般に「臨床試験」と言いますが、「くすりの候補」を国(厚生労働省)から「くすり」として認めてもらうために行う臨床試験のことを、特に「治験」と呼んでいます。

本院では、患者様を対象とした「治験」^注を行っており、平成11年から現在まで延べ400人以上の患者様に「治験」にご協力頂いています。「治験」は、「くすりの候補」を人に試すこととなりますが、「治験」への参加は患者様の自由意志で決めて頂き、途中でやめなくなった場合は理由をご説明頂くことなくいつやめて頂いてもかまいません。「治験」に参加されない場合や、「治験」を途中でやめられる場合であっても、それによって不利益を受けることは一切ありません。また、「治験」に関する検査の費用や、「治験」のために来院頂いた際の交通費は製薬会社から支払われますので、患者様に負担頂くこともありません。そして何より、「治験」にご協力頂いている患者様には、治験コーディネーター(薬剤師1名、看護師4名)が診察や検査などに同伴し、安心して治験に参加して頂けるようにいろいろなサポートをさせて頂いています。治験コーディネーターを見かけられましたら、「治験」についてどのようなことでも結構ですので、いつでもお気軽にお問い合わせ下さい。

いま使われている「くすり」も、先人の協力によって誕生したものであり、言わば「先人からの贈り物」です。新しいより良い「くすり」を次の世代に贈るためにも、どうか「治験」にご協力頂きますようお願いいたします。

^注 本院では、健康な方を対象とした「治験」は行っていません。



私たちが治験コーディネーターです。

本院で行っている治験や 治験に関するお問い合わせ先

治験管理センター(病院1階院内図書館のとなり)

TEL.077-548-2477 FAX.077-548-2477

受付時間 午前9時00分～午後4時00分

(土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く)

Eメールアドレス: hqchiken@belle.shiga-med.ac.jp

院内図書室について

看護部管理室 副看護部長 三島 幸子

平成15年10月22日、院内図書室を開設しました。院内図書室は入院で外出ができない患者さまや乳幼児の付き添いのご家族の方々がほっとする憩いの場の提供を目的とするものです。

院内図書室は、院内1階売店の隣に設けられました。約30平方メートルとこじんまりしていますが、中央エレベーターホールに面しており患者さまに利用していただくのにはとても便利な場所です。

蔵書は約2,300冊、ジャンルも様々で殆ど学内職員からの寄贈によるものです。当初、本が集まらず苦慮しましたが、職員の協力によりあっという間にあふれるほどの蔵書になりました。

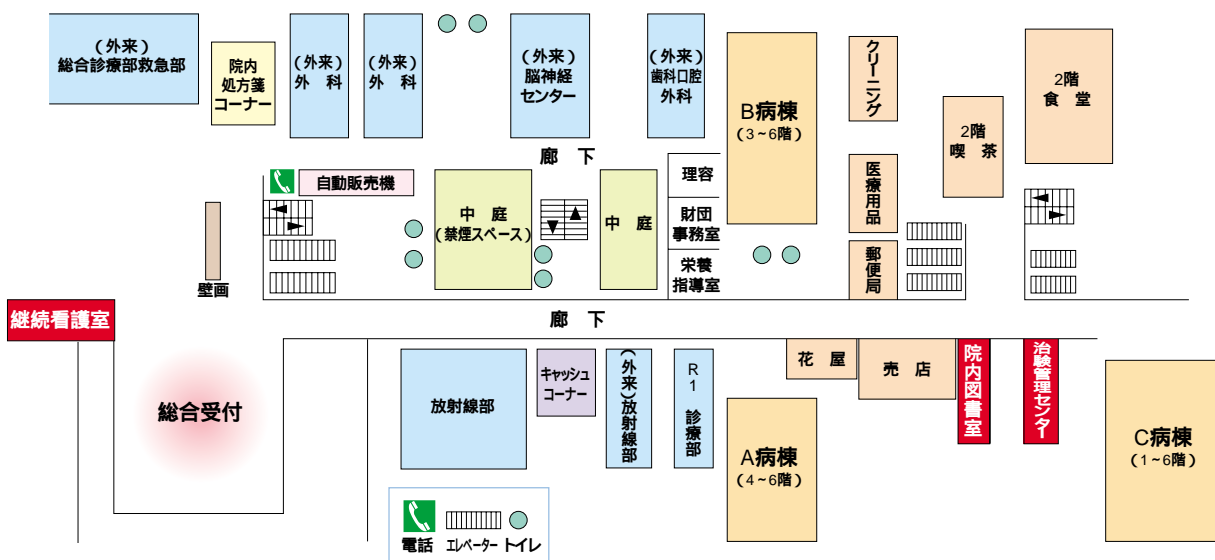


また、開設に向けてはボランティアの方々による本のピニールコーティング、図書課職員による書籍の分類・配架等の準備をしていただきました。

閲覧はどなたでも可能ですが、貸し出しは入院患者さまを対象に毎週水・金曜日11:30～13:30まで開室しております。運営はボランティアと看護部・庶務課が担当しています。

また、去る11月に実施された病院機能評価受審では本学附属図書館も含めて最高の評価をしていただきました。患者さまからは毎日開室してほしいという要望をいただいております。要望にお応えできるように充実を図りたいと思っています。

院内1階フロア案内図



発行 〒520-2192 大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学医学部附属病院
病院広報委員会

委員長 永田 啓
編集長 高橋 雅士
病院経営改善企画室 TEL.077-548-2511